

報道関係者の皆様へ

2018年4月吉日

## 6月16日は「和菓子の日」

～限定商品販売のお知らせ～

6月16日は「和菓子の日」。とらやでもこの日にちなんだ商品を期間限定で販売いたします。

### 「和菓子の日」の由来

「和菓子の日」は、昭和54年(1979)に全国和菓子協会が制定したもので、そのルーツは「嘉祥<sup>かじょう</sup>」という行事にあります。菓子が主役の行事で、江戸時代には公家や武家から庶民まで厄除招福を願って菓子を食べました。

### 「嘉祥」と和菓子

嘉祥の由来は諸説ありますが、一説には平安時代の仁明天皇<sup>にんみょう</sup>の御代から始まる招福・厄除けの行事とも言われています。

室町時代には、嘉祥は6月16日に行われるようになりました。当時の武家では、この日に楊弓<sup>ようきゆう</sup>という短い弓矢で的を射て、負けた者が中国の銭「嘉定通宝<sup>かじょうつうほう</sup>」16枚で食べ物を買ひ、勝者をもてなしました。嘉と通が「勝<sup>かつ</sup>」に通じることから、武家に尊ばれたのです。

江戸時代の幕府においては、嘉祥は重要な行事と見なされ、江戸城大広間500畳に2万個を超える羊羹や饅頭などの菓子が並べられ、將軍から大名・旗本へ与えられたといわれています。宮中でも、年中行事のひとつとして盛んに行われました。とらやには、御所へ嘉祥用の菓子をお納めした記録が残っており、現在販売している『嘉祥菓子7ヶ盛<sup>かじょうがし</sup>』は江戸時代末期に用いられた菓子をもとにお作りしています。

庶民の間でも厄除けのために菓子などを食べる慣わしがありました。井原西鶴『諸艶大鑑<sup>しよえんおおかみ</sup>』(1684)には、京都・島原遊郭での嘉祥喰いの場面が見え、とらやの羊羹など16種の食べ物が用意されています。



「千代田之御表 六月十六日 嘉祥ノ図」：江戸城内で菓子が配られている様子が分かる。虎屋所蔵。  
(参考資料：中山圭子『事典 和菓子の世界』 / 青木直己『図説 和菓子の今昔』)

## 「和菓子の日」にちなんだ商品



かじょうむしようかん  
**嘉祥 蒸羊羹**

江戸時代、嘉祥の行事で江戸城大広間に並べられた菓子の一つを再現しました。夏負けの防止効果があるとされる黒砂糖を加えおつくりした、小倉の蒸羊羹です。

販売期間：2018年6月10日(日)～6月16日(土)

※一部取り扱いのない店舗もございます

価格：1本 2,160円(税込)



かじょうまんじゅう  
**嘉祥 饅頭3個入**

風味の異なる3種(黄の薯蕷饅頭、紅の新饅、茶の利休饅)のお饅頭です。それぞれ嘉定通宝の朱印、小槌形の焼印、「全国和菓子協会」マークの焼印を押しています。

販売期間：2018年6月10日(日)～6月16日(土)

※一部取り扱いのない店舗もございます

価格：1箱 1,296円(税込)



ふく  
**福こぼこ**

道明寺製『なりひさご』、煉切製『はね鯛(紅・白)』、『御目出糖』の3種類が入った、縁起の良い菓子の詰め合わせです。

販売期間：2018年6月10日(日)～6月16日(土)

販売店：【関東・中部】

直営店(東急プラザ赤坂店を除く)、  
新宿伊勢丹、アトレ目黒1、玉川高島屋S・C、  
横浜そごう

【近畿】

直営店、京都高島屋、大丸京都店、  
ジェイアール京都伊勢丹

価格：1箱 2,160円(税込)



かじょうがし  
**嘉祥菓子7ヶ盛 (要予約)**

土器に盛った7種類の嘉祥菓子は、江戸時代末期、御所にお納めしていたものを元におつくりしています。

予約承り期間：2018年6月1日(金)～6月12日(火)

お渡し日：6月14日(木)・15日(金)・16日(土)

店頭販売：6月16日(土)

販売店：【関東・中部】

直営店(東急プラザ赤坂店・御殿場店を除く)、  
新宿伊勢丹、アトレ目黒1、  
玉川高島屋S・C、横浜そごう

【近畿】

直営店、京都高島屋、大丸京都店、  
ジェイアール京都伊勢丹

価格：3,240円(税込)